

シユミットさんの話

間中喜雄

西独の医師のシユミットさんが日本に鍼の研究に来た。私の家にも遊びに来られて、一緒に患者を診たり、色々の話をしたりした。

私のドイツ語は、もう十五年も話した事がないからアヤシゲだが、手振り身振り、英、独、仏、チャンポンに用いて何となく通ずる。彼から聞いたハナシで面白そうなる事を一寸御披露する。

○日本に来て、技術が重んぜられていないのを感じた。オカベ(素堂さん)はあんな名人だのに一回の治療に二百円(二マルク)しか支払われない。

私は健保はやらない。自費の患者だけ取扱うが、貧乏な人には特に五マルク(五百円)でやつてやる事がある。

一般に一回十マルク(千円)もらう。ドラフエイ氏の如きは、二十マルク・三十マルクもらう、ドイツで若し君が二マルクなぞ要求したら患者は、君の技術をそんなに低く見てののかと云われる。

日本では本も安い。精神的労作も重んじられてない。

○ドイツでは比較的太い鍼がきく、日本では細い鍼を使うが、之は体質の違いだろう。ドイツ人は太つていてエネルギーの人が多い。

一回大約六ヶ所以上刺す。(シユミット氏は十番鍼位の鍼を、氏の工夫したバネ仕掛けの機械でパチンと打ちこむ、深さは二乃至三ミリから一糶位まで、ネヂで加減する。)五分から十五分位置鍼して抜く。大抵少量血が出る。之を一週一回やる。

灸は痕が残るからいやがる。だが日本でやつてゐる様な灸頭鍼ならきつと喜ばれると思ふ。

○オカベの処で、脈に鍼がよく影響するのを見せてもらつて驚いた。我々のやる太い鍼ではこんなデリケートな事は判らなかつた。

○我々は鍼の治効に驚いている。

だが支那本国ではどうなのだろう。ドイツで中国の病院に居た連中がたくさんいる。この人たちに尋ねると、あんなものは野蛮な治療で駄目だと云う。彼等は病院以外に出た事はない。彼等は西洋医学でうりこんだのだから東洋医学に全然興味を持つてない。第三に彼等の処には鍼術の過誤だけが持ちこまれている。出血死とか、感染したとか云う患者を見ている。だから必然的に、鍼を低く評価する様になつたのだ。彼等は鍼の真価を知らない。

○シロタは経絡を否定するのだつてこんな立派な経絡の教課書を書いた著者がどうして経絡を否定するのか、私には判らない。

○ドイツでも、私共の治験を信用しない学者も多い。ある教授は、暗示療法だけで喘息を八〇%治したと云つてゐる。私が喘息を七〇%治すと云つたら。その作用は、暗示かも知れないと推論した。よしんば暗示で効くとしても七〇%治す暗示療法なら、立派な暗示療法でしょう。

○(私が、片手に鍼をうつて腹部の片側だけ圧痛がとれる実験を見せたら……)

○神経痛の原因は判らない事が多い。ドイツでは焦点感染だと云うので、扁桃腺を抜かれ鼻の手術をし、歯を全部抜かれて口がパクパクして、神経痛だけは相変わらず、なんと云うのが沢山います。

○歯を抜いたり、扁桃腺をとつたりする手術自身が「瀉」になつて鍼と同じ効果を来す事も考えられますね。

○鍼の影響や現象が説明出来ないからと云つて否定するのはいけない。先づ事實です。それから説明です。

○西洋医学は確にエライ進歩をしている。然し我々は、その限界を知つてゐる。

○今までのフランスの鍼術は、スリエドモラソンの紹介と、その転写を出ない。スリエドモラソンの偉いものが、支那の劇から風俗から、詩から、色々のものを本に書いてゐる。鍼だけに特に深い研究をつんだのではない。そして彼自身臨床家でない。

○ドイツにも健保があります。その支払は少ない。私の家内は保健をやつてますが、一日八十名位の患者をあつかつてます。私は自費の患者だけで十五名位しか見ない。けれど、収入は私の方が多い。

患者の少ない医者で、役所から生活保護をう

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます

けてる者もある。だから医者には時代遅れにならない様に、始終本を読み研究会や学会に出ないといけない。

○一寸した医者は自動車をもつてゐる。私の家にもある。ドイツで貴下位患者があれば、メルセデス・ベントの堂々たる自動車を走らせてる。

○現在ドイツで鍼をやつてゐる人は約三百人もいます。大部分は、痛い処だけに鍼をやつてただけだ。之は下手なやり方だ、今の処鍼らしい鍼のやれる人は二十人位でしょう。

然し始つて三年です。今にもつと盛になります。フランスにも約八百人以上はいます。宣伝の上手で腕はどうかと思われる人もいます。

○ドイツでインペラートル療法と云うのを考へた人があります。之は注射でノボカインとカフエインが主成分です。之を「急所」に注射する。例えば坐骨神経痛で難治の患者に、「焦点感染」がどこかにあると云うので歯根部や扁桃腺などにやつて見る。すると之がうまくあたると、局所治療をしないで苦痛がケロリと治つて終る。之を考へた人はフネカと云う人です、始めは問題にされなかつたが、この頃は大部やつてゐる人が多い。

喘息の時など、胸部の「経穴」にやつてい

ます。その考えはキツト「鍼灸」から来たのでしよう。しかも「鍼灸」より之の方が効く

なぞと云つてゐます。○赤羽氏の方法は大変面白い。之によつて経穴の位置や、刺戟量の適否をある程度数学的に表現できる。之はドイツの医学雑誌に報告すべきだ。

医道の日本社

医道の日本社

医道の日本社

医道の日本社

医道の日本社

医道の日本社

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます